

中郷区地域協議会だより

第68号(令和7年度第1号)

地域協議会の活動は上越市ホームページで閲覧できます。



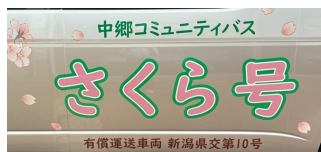
発行日:令和7年7月25日
発行:中郷区地域協議会
編集:地域協議会だより
編集委員会
(中郷区総合事務所)
TEL:0255-74-2411

地域協議会委員4区合同研修会を開催しました！

7月11日(金)、清里・板倉・牧・中郷の4区の地域協議会委員が集まり、合同研修会が開催されました。第1部では、各区が地域活性化の取組について発表し、中郷区は「ずっと大好き中郷！未来へのバトン」をキャッチフレーズに掲げ、住み続けたいまちづくりを紹介しました。他区の発表からも学ぶことが多く、非常に有意義な研修会でした。第2部では、地域政策課と地域自治の仕組みづくりに関する意見交換を行い、地域の未来を自分たちで考える意義をあらためて感じました。(村越委員)



地域コミュニティバス「さくら号」の運行について



地域の互助による地域コミュニティバス「さくら号」の運行が始まりました。私は、NP0法人中郷区まちづくり振興会の理事長も務めており、地域協議会での審議を経て、4月からまちづくり振興会が中心になり運行をスタートしました。利用者数も4月・5月と100件を超え、「利用者に寄り添った対応をしてもらえる」との声をいただいています。運転手も常時2名体制で、その他にも臨時で対応していただける運転手も引き受けていただき、順調に運行しております。今後も、地域協議会とまちづくり振興会が連携しながら、移動手段に困っている人にとって利用しやすい運行を目指していきたいと思っています。(岡田委員)

令和6年度子どもの い～場所開設事業の振り返り及び令和7年度の展望について



地域協議会では、昨年から始めた、「子どもの い～場所開設事業」を、まちづくり振興会と共にを行っています。使用した施設は、片貝縄文資料館、中郷総合体育館、中郷コミュニティプラザの3か所です。

子どもたちの自主性を尊重し、見守る形をとる事で、それぞれコミュニケーションを取ってもらえればと思っています。参加する子どもたちを小学校へ迎えに行き、帰りは、親御さんから迎えに来てもらいますが、迎えに来られない子どもは、まちづくり振興会が送り届けます。開設する場所によってできる事は限られますが、子どもたちはその場所に合わせた楽しみ方を見つけて過ごしています。

親子へのアンケートを取った中に、「縄跳び」などの備品があったら良いとか、「折り紙」などを教えてもらいたいというご意見をいただきました。今後、このことを、踏まえながら、中郷で育つ子どもたちにとっての「い～場所」を作って行きたいと思っています。(陸川委員)

《裏面もご覧ください》

「い～住プロジェクト」がスタートします！

6月の地域協議会で、各委員が感じている課題や意見を持ち寄り、今後、地域協議会で審議を進めるテーマについて話し合いを行いました。人口減少、学校存続、空き家増加、担い手不足といった深刻な懸念事項の緩和を目指し、その結果、自主的審議事項として「い～住プロジェクト」を推進することとなりました。Uターンしやすい環境づくり、Iターン（移住者）の受け入れ態勢の整備、Jターン（近接中郷区外への転出）の抑制に向けて、私たちができることは、まだまだあるのではないかと考えます。「結婚・出産を機に」「転職したい」「環境を変えたい」「自然の中で暮らしたい」そう考える人も少なからずいると思います。買物、通勤、通学、通院などの利便性において他地区に劣る部分もあるかもしれませんが、空き家や賃貸物件、働く場となる求人企業などの情報発信を強化するとともに、中郷区の魅力を改めて見つめ直しながら、審議を進めていきたいと思っています。（桐山委員）

アメリカの地域コミュニティについて

現在、私は、仕事の関係でアメリカに滞在しています。

アメリカでは、「ネイバーフッド協議会」という名前で、地域協議会が存在しています。この協議会の目的は、地域の共通の課題を見つけ、提言し、課題解決のために市役所と協働し、情報を交換しながら、その課題解決のために活動します。中郷区の地域協議会と同様です。

また「コミュニティ協議会」という組織も存在します。こちらは、州法によって設置が要請された組織で、最初は住宅を建設する開発業者が設立し、最終的には、住宅所有者から構成されます。この協議会の目的は、住宅所有者の投資の保護と固定資産の価値の維持の様です。コミュニティ協議会は、ゴミの回収や除雪、道路の舗装などのサービスをコミュニティに提供します。この様なサービスは、基本的に自治体の仕事ですが、管理維持費を住宅所有者から徴収する事が義務付けされており、それにより賄っています。ここ20～30年で急激にアメリカの人口が増加しており、住宅需要増が見込まれる州に多い協議会です。

写真の街（コミュニティ）は、その一例です。（鹿島委員）



編集後記

街なかを走る「さくら号」を見かけた時に、小学生の頃、バスの運転手さんから優しい言葉をかけてもらったことを思い出しました。母から、さくら号の運転手さんの対応がよいと聞いていたからでしょうか。当時の温かい「人とのつながり」は今でも覚えています。

子どもの時に、ふるさとや居場所があった人は、ふるさとを大切にするそうです。きっと住み続けている方はもちろん、Uターンする方も、自分の居場所がふるさとにあるからなのでしょうね。

ここ中郷も、いろんな方にとってのふるさとになるように、「子どもの い～場所開設」や「い～住プロジェクト」で「人とのつながり」を感じられる機会を作っていきたいと思っています。昔も今も未来も、大好きなふるさとの「中郷」でありますように。（尾崎委員）